
いばらき農流研
信頼される生産者グループを
目指して

2008年3月26日（水）
GAP全国会議

いばらき農産物流通研究会 事務局
玉造 洋祐



いばらき農産物流通研究会

いばらき農流研 概要

●グループ名：いばらき農産物流通研究会

●住所（事務局所在地） 茨城県小美玉市

●所属会員

・正会員（生産者・農業生産法人） 47名 ※2008年2月現在

内訳：行方市 14名 茨城町 11名 小美玉市 7名
笠間市 6名 水戸市 4名 鉾田市 3名
潮来市 1名 かすみがうら市 1名

・賛助会員 10社 ※2008年2月現在

（種苗メーカー・農薬メーカー・肥料取扱業・包装フィルムメーカー・農業資材販売店・
残留農薬分析機関・青果流通業 ほか）

●取り組み

- ・農産物の生産・販売
- ・農産物の集荷・配送
- ・農産物に関する研究および商品開発（残留農薬分析・硝酸イオン測定・成分分析ほか）
- ・農産物の販路開発
- ・JGAPに基づく「農流研統一農場管理基準」の運用
- ・グループ内における内部審査組織「内部審査委員会」による
自己点検

いばらき農産物流通研究会

グループポリシー

「顧客第一主義」

お客様の満足度の最大化をめざす

すべての判断基準は「お客様の満足が高まるかどうか」

「農産物の安全」とは. . .

「安全」は万人が農産物を含めた食品へ求めるニーズ



供給サイドとして “どこまで「安全性」を高め、表現できるか”

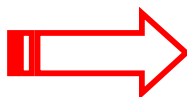
農産物生産・販売における行動基準

「安全で新鮮でおいしい野菜・米」づくりを
探求し、実現する。

「安全さ」、「新鮮さ」、「おいしさ」は「明確な根拠（数値化）」
誰もが理解し、納得できるものを示す。

「農産物の安全」とは...

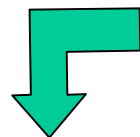
農流研の結論：「有機」「特裁」「生産履歴記録」「抜き打ち残留農薬検査」では不十分



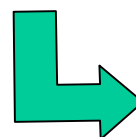
“農産物の安全性を確保するには「GAP」が有効”



リスクの検討・リスク排除
ルール化
実施
記録



JGAPの実施



「統一農場管理基準」パート1 農場管理編 施設、設備、管理体制、トレーサビリティ管理等の基準

いばらき農流研
統一農場管理基準

【第5版】
【部外秘・転用禁止】

作成日:2007年5月1日
作成者:玉造

パート1【農場管理】

作業工程	対象	チェック項目	記録	備考(必要な書類など)	JGAP項目	重要度
新規圃場の確保		過去1年以内に新しく圃場を増やした場合、その土地が汚染されていないか確認したか	是	「新規圃場チェックシート」	3.2.1	必須
		上記確認後、汚染の危険性があった場合に、調査をし、対策をとっているか	是	〃	3.2.2	要
		過去1年以内に新しく圃場を増やした場合、その土地の周辺に問題となる住宅地、畜舎、耕作地がないか確認したか	是	〃	3.2.1	必須
		上記確認後、問題となる場所があった場合に、調査をし、対策をとっているか	是	〃	3.2.2	要
		過去1年以内または今後1年間に新しく圃場を増やす際に、新しく地下水などの水源を使用する場合、水質分析を行い、問題がないことを確認しているか	是	「新規圃場チェックシート」「水質分析結果」	4.2	努力
		上記確認後、問題となる場所があった場合に、調査をし、対策をとっているか	是	〃	4.2	努力
		上記の水質検査は、保健所(または厚生労働省登録機関かISO17025取得機関)で行なったか	是	「水質検査の分析結果」	4.6	努力
		圃場図を作成し、各圃場の周辺環境を把握しているか	是	「圃場地図」「圃場リスト」	16.1	要
既存圃場の確保		・各単位圃場の「呼称」「住所」「面積」が明確に把握されているか				
		・周辺に産業廃棄物処理場、埋立地、家畜排泄物処理場など土壌汚染源はないか				
		・隣接圃場からのドリフトがないか、対策があるか			1.3.1	要
		・農薬の飛散対策を近隣圃場の使用者と話し合っているか			1.3.2	要
		・周辺のどんな動植物が生息しているかを把握しているか			13.1	要
		・住宅地や隣接圃場など、農薬の飛散などを注意する場所を把握しているか			10.1	要
		・未処理の下水が圃場に入ってきていないか			4.1	必須
		・使用した農薬や肥料が水源を汚染していないことを確認しているか			3.2.2	要
		・圃場の土壌について、土の種類(砂状土・火山灰土・黒く土など)と性質(保肥性・保水性・pHなど)を把握しているか			9.1	努力
		・灌水や農薬散布などに使用している水の水質検査を実施して、安全かどうか確認しているか(年に1回以上)	是	「水質検査の分析結果」	4.2	努力
水耕		上記確認後、問題となる場所があった場合に、調査をし、対策をとっているか	是	〃	4.2	努力
		上記の水質検査は、保健所(または厚生労働省登録機関かISO17025取得機関)で行なったか	是	〃	4.6	努力
		現在使用している溶液の水が安全かどうかリスクを検討しているか(年に1回以上)	是	水質検査結果	3.1.2	努力
		上記のリスク検討時に、問題箇所を調査し、対策をとっているか	是	〃	3.1.3	努力
農場経営	組織	農場内で働く従業員やその連絡先、作業の役割分担が記載された組織表があり、最新のもののか	是	「組織表」	15.4	努力
品質管理	品質管理	農産物の品を管理やクレーム対応をする責任者が明確になっているか	是	「組織図」	16.6	必須
	雇用	従業員の管理を行なう責任者が明確になっているか	是	〃	15.1	要
施肥		肥料・培土について詳しい専門家からのアドバイスを受け、施肥をしているか			2.1.1	要
農薬散布		農薬使用責任者は、農薬に関する専門的な資格をもちますか	是	「資格証明書」	1.2.4	必須
		農薬に詳しい専門家に、農薬の選択や散布の時期などについてアドバイスを受けていますか	是	〃	1.2.4	必須
		前作で使った農薬のリストがあり、効果の検証をしているか	是	「昨年使用農薬リスト」	1.2.1	要
		昨年の実績をもとに、今年使用する予定の農薬を選択しリストを作成しているか	是	「今年度使用農薬リスト」	1.2.1	要
残留農薬分析		残留農薬検査は農流研の規定にしたがって年1回以上実施し、分析表を保管しているか	是	「残留農薬分析結果」	14.1	必須

1/7

「統一農場管理基準」パート2 生産工程管理編

農産物の栽培～出荷までの生産工程管理の基準

いばらき農流研
統一農場管理基準

【第1版】
【部外秘・転用禁止】

作成日:2007年5月1日
作成者:玉造

パート2【生産工程管理】

作業工程	対象	チェック項目	記録	備考(必要な書類など)	JGAP項目	重要度
施肥		作付け前に土壌分析を行い、分析結果をもとに肥料の選択と施肥量を決定しているか	要	土壌分析結果	2.1.2	努力
		使用する肥料・培土のカタログ、成分表を保管し、成分を把握しているか	要	カタログ 肥料成分表	2.1.3	重要
		生活廃水や人糞を肥料として使用していないか	要	〃	2.1.5	必須
		使用している有機肥料は原料や生産工程を確認し、雑草の種子や重金属の混入、伝染病の感染などのリスクを検討しているか	要	成分保証書・生産工程表	2.1.6	重要
		堆肥を購入している場合、成分検査証明書で原料を把握するとともに、C/N比や臭い(アンモニア臭)などで発酵が十分されているか確認しているか	要	成分保証書・生産工程表	2.1.6	重要
		自家製堆肥を使用している場合、重金属汚染や伝染病感染の恐れがあるものを入れていないか、また十分な発酵をさせ、作物に悪影響(生育阻害・病原菌汚染)がないようにしているか			2.1.6	重要
灌水		地下水に浸透したり、作物に含まれる硝酸態窒素を低減するように施肥をしたか	要	土壌分析結果 硝酸態窒素測定結果	8.2.2.2.14.	重要
		肥料・培土・堆肥の使用について記録をしているか	要	「肥料使用管理記録」	2.1.7	重要
		・記録内容:①圃場、②日付、③肥料名・成分、④施肥量、⑤施肥の方法・機械の種類、⑥作業者名				
		肥料散布機を使用前に点検し、正常に作動しているか確認しているか			2.1.8	重要
		肥料散布機は年1回以上整備を行い、オイルや部品の交換など整備箇所を記録しているか	要	「農機整備管理記録」	2.1.8	重要
		地下水を使用する場合、無駄に使用しないように期間内に使用する灌水量の計画を作っているか	要	「灌水使用計画表」	8.1.1	努力
		水分計などを利用して、灌水のタイミングや時間を判断しているか			8.1.2	努力
		かん水量を把握する為に灌水量を記録しているか	要	「灌水使用記録」	8.1.3	努力
	農薬散布	農薬の取扱いが偶れていない(作業者に)十分な訓練を実施しているか	要	「研修記録」	14.3	重要
		農薬散布を減らすために、農薬や防除技術などの情報収集をしているか	要	「パンフレット」「研修資料」	1.1.3	重要
農薬散布		農薬使用を減らすための取り組みを実践しているか		PM技術資料	1.1.1	重要
		・耕作的防除:抵抗性品種・太陽熱消毒・接木苗・緑肥・輪作・蒸気温湯消毒 など			1.1.1	重要
		・生物的防除:天敵昆虫・微生物農薬・訪花昆虫 など			1.1.1	重要
		・機械的・物理的防除:防虫ネット・マルチ・防蟻灯・粘着シート・循環扇・静電ノズル など			1.1.1	重要
		・化学的防除:天然由来成分農薬・低濃度農薬・ローテーション など			1.1.1	重要
		農薬への耐性や抵抗性がつかないよう、最低限の農薬でローテーションをしたり、生物農薬などを使用しているか			1.1.2	重要
		シマジなど水質汚濁性の農薬は使用していないか			8.2.2	重要
		農薬購入または使用の際は、農薬省登録番号で農薬登録があることを確認しているか			1.2.2	必須
		使用した農薬について記録しているか(土壌くん菜剤・育苗中に使用した農薬・培土に使用した農薬・圃場で使用した農薬)	要	「農薬散布管理記録」	3.1.7	必須
		・記録内容:①圃場、②日付、③農薬名・成分、④散布量、⑤希釈倍率、⑥施肥の方法・機械の種類、⑥作業者名				

農 流 研 生 産 者 管 理 情 報 表

「生産者管理情報表」

作業者・各責任者（農薬・肥料・製品品質管理・雇用管理）、栽培作物、圃場、機械の確認

生産者管理情報表

生産者名: _____

< 作業者 >

名前	続柄(生産者に対して)

< 圃場 >

名称	面積(単位:アール)	住所(分かる範囲でご記入下さい)

< 作物 >

名称	品種

< 使用機械 >

※ 農薬散布と肥料散布に使用している物は必ずご記入下さい

呼び名(通称)	使用用途

いばらき農産物流通研究会

GAPは農産物流通のパスポート

GAPをベースとしたグループ内の農場管理の統一化

第1フェーズ	2006年4月～2006年10月	「個別農場のJGAP認証取得」
第2フェーズ	2007年4月～2007年7月	「統一農場管理基準の策定」 「内部審査の制度化」
第3フェーズ	2007年8月	「JGAP団体認証取得」

農産物の販売におけるGAPの役割

1. 商品の品質管理ツールとして

- ・・・生産工程管理により食品事故防止対策ができ、取引上のリスクを軽減できる

2. マーケティングツールとして

- ・・・販売先または消費者との信頼関係構築に役立つ



供給サイドにとってGAPは、需要者または消費者の満たされないニーズに対応し、「攻め」の突破口になる。

いばらき農産物流通研究会

販売事例 1 量販店様向け

2006年7月～ スーパーマーケットPBに採用

にら・チンゲンサイ・水菜・小松菜・ほうれん草・にんじん・
ごぼう・ちぢみほうれん草・レタス・ミディトマト・長ねぎ・
大根・しいたけ・さつまいも・サニーレタス・有機エンサイ・
とうもろこし・じゃがいも

2007年10月～ 量販店様向けNB「ニッポンの野菜」に採用

にら・チンゲンサイ・水菜・小松菜・ほうれん草・ごぼう・
さつまいも



販売事例2 外食・中食様向け

2006年11月～ 外食様・中食様向け販売開始

【ホール野菜】

にら・チンゲンサイ・水菜・小松菜・ほうれん草・
にんじん・有機水菜・有機ほうれん草・有機春菊

【カット野菜】

ほうれんそう・にんじん

農産物の商品性なかでGAPは生かされる



使いやすさ

おいしさ

新鮮さ

G A P

形

栄養

栽培方法

G A P

大きさ

デザイン

食感

G A P

文化

香り

色彩

G A P

価格・規格・供給時期・供給量・品揃え・リードタイム・・・・

いばらき農産物流通研究会

開発商品

- ・周年供給掘りたてごぼう
- ・国産パプリカ
- ・加工用低コスト高ベータカロテンにんじん
- ・低硝酸態窒素小松菜・水菜・ほうれん草・チンゲンサイ
- ・高抗酸化性野菜シリーズ
- ・有機野菜シリーズ

ほか